

会議等結果報告書			
会議区分	会議 ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	333
		決裁期日	平成22年 4月 7日
名称	上富良野町協働のまちづくり推進準備委員会（第19回）		
日時	平成22年4月 6日（火） 午後6時30分～午後7時10分		
場所	保健福祉総合センター1階会議室		
出席者	委員 10人 町民生活課事務局 2人 合計 12名 傍聴者2人		

## 内 容

[進行：町民生活課長]

- ◎ 丸田会長から、「協働のまちづくり基本指針」（素案）の作成について、これまで18回、延べ50時間も要し、自治基本条例の学習から、5回のワークショップでの真剣に意見を出し合い、素案の作成については、決して順調ではなかった意見のぶつかり合いなど、数多くの本音の議論を重ね、完成したもので、これをもとに新たな委員会での基本指針の完成、そして町民に向けては分かりやすいダイジェスト版の作成に向けて尽力いただきたいとのことばで向山町長へ「協働のまちづくり基本指針」（素案）を手渡す。
- ◎ 向山町長から、みなさんがお忙しい中、18回もお運びいただき、様々な議論を重ねご苦労いただいたことのねぎらいのことばをいただいた。

## ◎ 懇談

本田委員：協働は、大小あるが地域でいろいろやっている。これは財産だと思う。

岩田委員：議員が同席したが、議員は、町民から遠い存在なんだと感じた。素晴らしい人材とともに関わることができて楽しい時間だった。

佐川委員：議会でいち早く手を挙げ、自分から進んで委員になった。議員が入ったの委員会で新しい動きだと思った。こういう話し合いの場が良かった。今後の委員会も本音で話し合える人を選んでほしい。行政はやりやすい人を選ぶという人もいる。人選を的確にしてほしい。

基本指針を絵に描いた餅にしないよう、仏を作って魂入れずとならないようお願いしたい。

町民に配布するのは子どもでも読めるような簡単な文書でお願いしたい。小学6年生程度に合わせて作成したという例もある。

北越委員：日本中で協働、協働と騒いでいる。始めは、どこでも行政の批判の大合唱だが、この会はなかった。素晴らしい会だった。

石田委員：この会に参加し、ワークショップ含め、皆さんといろんな意見を交わしたこと。私のこれからの大きな財産です。

田中前町民生活課長：始めはどうなることかと思っただが、ワークショップのあたりからか、積極的な本音の意見が出るようになり、活発な議論が展開された。いろいろなこともあったが、ここまでできたこと本当にほっとしています。ありがとうございました。

丸田委員長：これで、この後の委員会にバトンタッチするが、委員の皆さまには多くの委員に残

っていただきたい。いい協働のまちづくりを期待したい。

大変自分自身勉強になった。いいメンバーに恵まれた。自分の財産になった。今後に期待したいなどの意見があった。

## 閉 会

[会議終了：19時10分]